

07 植え付けられた差別の心 (ハンセン病)

(ナレーター) みなさん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。

5

2019年6月、ハンセン病患者の家族が国を訴えた裁判の判決が下されました。国が患者を強制隔離したために家族までもが差別を受けたとして、国に賠償を命じました。判決を受け入れた国は、「深く反省し、心からおわびする」と家族たちに謝罪しました。今日は生徒になったつもりで、ハンセン病についての授業を聞いてみましょう。

10

【教師】みんな、ハンセン病って知っていますか。この病気は「らい菌」による感染症です。感染しても発病するのはまれで、治療すれば後遺症も残りません。しかし、90年近く前にできた法律で、患者は家族から引き離され、療養所に入る事が決められていました。

15

それだけではありません。家族や親せきに患者がいるといっただけで差別され、仕事を辞めさせられた人や、結婚できなかった人がたくさんいました。法律は1996年に廃止されましたが、差別は続いています。

20

福岡で生まれた奥晴海（おく・はるみ）さんの話をしましょう。晴海さんのお母さんはハンセン病だったため、晴海さんは4歳から、同じ境遇の子どもたちと寮で暮らしました。

25

でも近くの住民たちは、寮の子どもが小学校に通うことに
猛反対しました。その影響で寮は閉鎖されてしまったのです。
30 次に引き取られた親戚の家でも、晴海さんは「人前に入るな」
などと差別されました。

寂しかった晴海さんは、休みになると、療養所のお母さん
にこっそり会いに行きました。1人で船に乗り、山道を歩い
35 て3時間もかかったそうです。

でも、晴海さんは、一度もお母さんに触れることができま
せんでした。大人になってからも、お母さんが亡くなるまで
40 ずっと。病気はうつらないと頭では分かっているのに、子
どもの頃からずっと恐ろしい病気だと教え込まれてきたせい
で、大好きなお母さんの手を握ることさえできなかったんで
すね。

45 晴海さんは73歳。お母さんと触れ合えなかったことを今
でも後悔しています。

（ナレーター）国の誤った隔離政策が偏見や差別を生み、親
50 子を引き裂いてしまいました。差別されてきた晴海さん自身
が差別の心を植え付けられ、愛する母親に触れることもでき
なかつたのです。こんなに悲しいことが二度と繰り返されな
いよう、晴海さんは自分の体験を語り続けています。